



干支の本



タイトル	著者名	出版社	
『あかべこのおはなし』	わだ よしおみ 著 わかやま けん 著	こぐま社	097.2/ワ
あかべこは、遠くに見える赤いおやまが気になって仕方ありませんでした。どうしてもおやまへ行って見たかったあかべこは、ある日決心して、長い長い旅に出ました。			
『うし』	内田 麟太郎 詩 高畠 純 絵	アリス館	E/ウ
草原に立つうしが後ろを振り返ると、そこにはもう一頭のうし。後ろのうしが振り返ると…詩を絵本にした作品。うしの絵が、迫力満点です。			
『うしちゃん えんそくわくわく』	きむら ゆういち 作 ふくざわ ゆみこ 絵	ポプラ社	E/ウ
明日は、「じゅうにしえん」の遠足の日。うしちゃんはみんなの遊び道具を持っていくことを引き受けましたが、すっかり忘れて、大きなお弁当とたくさんのおやつをリュックにつめてしまいました。			
『蚊とうし』	ヒョン・ドンヨム 文 イ・オクベ 絵 おおたけ きよみ 訳	アートン	E/カ
ふだんは蚊に血を吸われても気にも止めない、おおらかなうし。そんなうしを、蚊は馬鹿にしていました。ある晩、ハエと賭けをした蚊は、うしをからかいながら、遠慮なく刺しまくり…。			
『くいしんぼうのはなこさん』	いしい ももこ ぶん なかたに ちよこ え	福音館書店	E/ク
はなこは、とつてもくいしんぼうでわがままな子うしでした。食べるものといえば、ごちそうばかり。春になり、他のうしたちに勝って山の牧場の女王になったはなこは、ますますわがままになってしまいました。			
『こたつうし』	かわまた ねね 作 長谷川 義史 絵	世界文化社	E/コ
「こたつうし」。それは、寒くてこたつから出れなくなった、うし。こどものうしたちは、お母さんのこたつが気になって、一頭ずつ入ってみますが…ぬくぬくとあたたかく、だじやれが楽しい絵本です。			
『ノロウェイの黒牛』	なかがわ ちひろ 文 さとう ゆうすけ 絵	BL出版	E/ノ
昔、ノロウェイというところに、美しい三人の姉妹がいました。上の二人の娘は貴族と結婚したいと望みましたが、末の娘は恐ろしい怪物の黒牛でも良い、と口にしてしまいました。			
『はなのすきなうし』	マンロー・リーフ おはなし ロバート・ローソン え 光吉 夏弥 やく	岩波書店	E/ハ
フェルジナンドは、草の上に座り、静かに花の匂いをかぐのが好きなうしでした。お母さんは他のこどもと遊ばない息子を心配しましたが、フェルジナンドはまったくさびしくありませんでした。			
『まめうし』	あきやま ただし 作・絵	PHP研究所	E/マ
まめうしくんは、とても小さなうし。小さすぎて、母さんうしのおっぱいを飲むのもひと苦労。たくさん走ることも苦手なので、ねずみくんたちによく助けてもらいます。まめうしくんも、みんなにお返しをします。			
『モーイイヨ』	五味 太郎 作	クレヨンハウス	E/モ
「モーイイカイ」「モーイイヨ」「モーミツカッタ」。大きいうしさんと小さいうしさんが、のんびり二頭でかくれんぼをします。言葉の繰り返し楽しい絵本です。			